

【2023 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

科目名	ナンバリング	区分（必修・選択）	単位数	履修年次	開講学期等
臨床実習Ⅳ		必修	10	4	通年
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
粕山 達也 他	D311	kasuyama			
授業の目的・概要	臨床現場において理学療法の総合的なプロセスについて実践を通じて学習する。診療参加型臨床実習に基づいて、見学・模倣・実施のステップによって臨床的技能を身に付ける。評価実習の内容に加えて、理学療法プログラムの一部実施や効果判定、後方施設への情報提供資料の作成等によって臨床力を向上する。なお、実習は協力が得られた施設において1ヶ所・10週間の実習を行い、合わせて前後評価を行う。前後評価では臨床的技能や知識の確認、実習ポートフォリオと実習報告書の作成と発表等を行い、理学療法の理解度を高める。				
授業形式・方法	☒ 対面授業 ☐ 遠隔授業(双方向型) ☐ 遠隔授業(自主学習) ☐ 講義 ☐ 演習 ☒ 実習 ☐ 実技 ☒ PBL ☐ 反転授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ その他（ ）				
学習上の助言	臨床実習協力施設における臨床実習指導者の指導の基、評価から治療実施までの理学療法の全過程を体験する。患者・利用者を経験するまたとない機会なので礼節を持って臨んでほしい。実習の手引きについてよく読んで理解してくること。服装・身だしなみが実習にふさわしくないと判断された学生は、実習への参加はできない。遅刻・早退・欠席の場合は必ず事前に連絡すること。また、実習中の気分不良や実習後の体調不良についても速やかに連絡すること。				
教科書	教科書は指定しない。				
参考書	臨床実習の手引き 第6版 日本理学療法士協会				
外部教材	特になし。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	医療人として必要な接遇と実習態度をとることができる。			PT (1) ～ (6)	
②	適切に理学療法検査・測定を行うことができる。			PT (1) ～ (6)	
③	理学療法評価を行い統合と解釈、問題点の抽出を行うことができる。			PT (1) ～ (6)	
④	運動プログラムの立案と妥当性の検証を行うことができる。			PT (1) ～ (6)	
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
臨床実習指導者の指導を受けながら、理学療法士として求められる能力である臨床推論法や実技、診療ならびに学習における基本的姿勢を学習する。理学療法を実施するにあたり、患者様・利用者様の障害像の把握を行い必要な情報収集とともに適切な評価を実施し理学療法計画を立案する。さらに、実際に理学療法の治療実践ならびに治療効果判定を行い、理学療法士としての基盤を築く。実習終了後、実習日誌（模擬カルテ）等の情報を基に、実習中に学習した内容について報告会を行う。加えて、実習到達度の確認のために客観的臨床能力試験を行う。 【学外実習 10 週間 400 時間】 ① 1～2w：理学療法の業務内容を見学することと、臨床場面に慣れる。診療参加型実習について、実習施設と相談をして、学生が関与できる内容について確認する。理学療法評価が実践できるように、見学→模倣→部分実施を行い、段階的に評価が行えるように準備する。 ② 3～4w：対象症例の情報収集、理学療法評価を行う。 ③ 5～6w：初期評価の結果から一部治療プログラムを実施する。 ④ 7～8w：実施したプログラムの検証と最終評価を行う。 ⑤ 9～10w：院内において症例報告を行うとともに指摘された事項を修正する。 病院での学内実習は8時間以内(週40時間)を原則として、自宅学習を含めて週45時間以内の学習時間とする。 実習課題： ① 実習日誌・模擬カルテ 毎日記載する課題であり、実習記録、学習内容、模擬カルテ等の記載を行う。模擬カルテは、各日に見学や担当した患者様・利用者様の中から1～2症例を選び、「SOAP」の形式で模擬カルテを作成する。実際に治療や評価を行った場合には、治療結果や評価結果に対する考察も記載する。 ② チェックリスト：実施した評価及び治療項目についてチェックをつける。 ③ 実習評価：実習全般を通じて、中間・最終時点において自己及び指導者評価をつける。 実習終了後：症例報告会に主体的に参加し担当教員よりフィードバックを受ける。					
必要時間（単位：時間）： 400～450					

【2023 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

学習課題・学習時間							
実習前準備（8時間）：実習オリエンテーションに参加し、症例に関する文献収集など準備を行う。							
実習後報告会（4時間）：実習記録をもとに、1症例の臨床思考過程をまとめて発表を行う。							
OSCE（客観的臨床能力試験）（4時間）：3年次に実施したOSCEの内容と同様の試験を行い、実習後の能力評価を行う。							
必要時間（単位：時間）： 16時間							
達成度評価							
総合評価割合（％）		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	0	40	30	30	100
総合力指標	知識・技術力	0	0	10	10	10	30
	思考・推論・創造する力	0	0	5	10	10	25
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	10	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	5	0	5	10
	取組みの姿勢・意欲	0	0	5	0	5	10
	問題を発見・解決する力	0	0	5	10	0	15
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①	✓	学外実習評価表、出席状況、症例報告会（成果発表）の状況、OSCEの評価を総合的に判断し成績を判定する。				症例報告会にて担当教員より適宜コメントする。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①	✓	実習での取り組み内容をポートフォリオにまとめて、実習前後の取り組み内容と合わせて評価する				
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	学外実習評価表を基に臨床実習指導者より評価を受ける。 評価の妥当性については実習訪問時本学の教員と協議し検討する。				学外実習評価表を基に実習終了時までに臨床実習指導者よりフィードバックする。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	三科 貴博、高村 浩司、関口 賢人、関根 聡美、坂本 祐太、大塚 篤也、甘利 貴志 元山 美緒						
教員の実務経験	主担当者は理学療法士として17年の実務経験有						
実践的授業の内容	臨床実習に費やす全ての時間が実践的内容である。						
そ の 他	専門基礎科目群および専門科目群の授業科目のうち、3年次終了までに履修することができる必須科目の単位を全て修得していることが履修の要件となる。 大学が公表している感染対策を厳守すること。実習開始前より標準予防策について学ぶこと。 なお、シラバスの内容は新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により改訂することがある。						